

榛 名 巡 検

中 安 直 子

この巡検は、「自然地理学実験Ⅰ」の一部である。榛名山を対象地域とし、文献と空中写真判読をもとに室内作業を行い、6月と9月に2回の巡検を行った。

6月6日、群馬県渋川駅に集まった私達7人は、先生を先頭に降下テフラや火砕流、洪水流の堆積物を観察できる場所を探して歩き始めた。利根川の対岸には赤城山麓の雄大な景色が望めた。

駅から数km上流の谷中では、榛名火山噴出物に特徴的なゴマ塩状に角閃石が入ったパミスを観察し、触ってみる。その他、水路脇の崖や造成地の露頭などでも、6世紀前半の噴火による榛名一渋川テフラ層(Hr-S)や6世紀後半の榛名一伊香保テフラ層(Hr-I)と思われる堆積物を見ることができた。この日の観察地点は5ヶ所。意外と能率は悪いものだったと思った。観察地点で共通することは、普段、人が気にも留めない所だということだ。文献で前もってだいたいの位置は分かるが、良い観察地点を見つけるには、勘と経験が必要だと感じた。

その後、空中写真判読を行って文献中の地形分類図を地形図上で確認する作業をやり、9月17日から1泊2日の巡検を行った。今回は榛名山の南東麓である。

1日目は八木原駅から出発。このあたりは利根川の河成堆積物がよく見られた。川近くの段丘崖では、榛名山からと思われる洪水堆積物を観察し、教室での作業中、空中写真の不思議な世界で追い求めていた実物はこれか、と納得する。そし

て利根川に向かって段丘面を下っていくと工事現場があり、ちょうど掘っていた穴の中が見学できた。中は利根川系の円礫の厚い層であった。このような思いがけない観察地点を発見できるのも、現地調査ならではのである。この日は、最後に利根川の堤防まで行き、現在の利根川が対岸の赤城山麓を浸食している様子を見た。

2日目はさらに南の群馬総社駅から出発した。まず利根川支流の午王頭川沿いの段丘崖を見るべく、橋の脇からガードレールを越えて急斜面を下る。ここでは、利根川系の変成岩の礫層の下に泥炭層、その下に粘土層が観察できたが、解釈はつかなかった。次に、利根川沿いに上流へ歩いていくと、またもや工事現場の穴があり、フラッドルームの下に厚い火山性ルームが堆積しているのが分かった。その下の礫層は層相から火砕流あるいはその直後の土石流末端と考えた。午後は、榛名山の南側にあたる箕郷町のあたりで、火砕流特有の堆積地形とHr-Iを観察することができた。

教室での作業と野外での調査を組み合わせることで、地形調査法の流れを把握でき効果も大きかったのではないと思う。また、自然地理学の難しさを身をもって実感できた。

それにしても、この巡検は榛名山麓をひたすら歩き回ったという印象が強く、頭だけでなく体にも良い運動となった。さらに体重が減るというおまけつきで、地理学って美容にいい、そう思える巡検であった。

(6月6日、9月17~18日 杉谷教官指導)